十三日. 朝懐かしい我家に歸つて父母弟妹の元氣な顔をみて嬉しかつた.

十五日. 朝鹿兒島を立つて, 十六日の朝京都に歸つた. 流石に京都は寒い. 丁度都合が惡くて, 獨逸留學のため十七日出發された荒木先生にお會ひ出來なかつたのは殘念だつた.

今になつて臺灣旅行のことを顧るこ, 色んな感想が湧いてくる. 種々の點で學問的に考へて決して無意義な旅行ではなかつた. 諸種の天體觀測に內地よりも好條件を備へてゐる臺灣に或る憧がれをさへ感ずる.

此の旅行中, いつも親の如き親切を以て心配して下さつた山本先生こ旅行中種々の點でお世話になつた方々に深い感謝を捧げる. 又たこへ暫くでも會ふた人々を永く忘れないであらう. (昭四・二・五稿)

本年最初の新彗星

去る一月19日, デンマルク國のコペンハーゲン天文台から全世界に發送されだ報導に據るこ, 同月17日23時2分9(地方時)に, ドイツ國ベルゲドルクの「ハムブルグ天文臺」に於いて, 常々リペルト寫眞望遠鏡により小遊星なごを觀測してゐるシヴスマン Schwassman 及びワクマン Wachmann 兩氏は, **うし**星座の東端 (赤徑 $5^h40^m32^s$, 赤緯 $+20^\circ 30'$) の天空に 11.0 級の一彗星を發見した. 此の彗星の運動は每日西へ 28^s, 北へ $3'$ こいふのであるから, 可なり遠いものだらうこ豫想される. (I. A. U. 回報第 216 號)

I. A. U. 回報第 217 號によれば, ベルジク國ユクル天文臺のデルポールト Delporte 氏は一月12日に撮つた一枚の天空寫眞の中に此のシヴスマン彗星の姿を認めた由. 又, 同回報第 218 號によるこ, 米國ヤーキース天文臺のヴンビースブルツク氏こ張氏こは一月 4日, 12日, 20日の三回の觀測結果から下記の如き楕圓軌道を算出した. 又, ハーヴード大學でも昨十二月19日の寫眞位置を發表した. 此れで見るこ, 此等の日に早くも此の彗星の姿が偶然撮られたものらしい.

近日點通過の日	T	1929年 4月 1日36 (U. T.)	
近日點の引數	ω	2° 15′	(分點は 1929.0)
昇交點の黃徑	Ω	126 36	(分點は 1929.0)
軌道面の傾斜	i	3 39	(分點は 1929.0)
近日點の距離	q	2.030	(天文單位)
軌道楕圓の離心率	e	0.4358	
公轉周期	P	6年83	

故に, 軌道は普通の彗星こ言ふよりも, むしろ, 小遊星こ言つた方が好いぐらゐである.——こにかく之れが本年最初の彗星 1929a である.